

小説の言語行為とはどのようなものか

—小説における描写を中心に—

赤羽 研三
(上智大学名誉教授)

小説の言語行為を、日常の言語行為との違いから検討していくと、小説の特質の一端が見えてくるように思われる。そこで、そのような小説の発話行為のありようをとりあえず語りモードと呼び、日常の発話モードである話モードとどのように違っているかを明らかにする。語りは、純粋な語りと描写の部分に大別されるが、描写の側面、とりわけフローベールによって生み出された新たな描写の分析を通して、文学の独特の発話行為のありようを明らかにできればと思っている。そのとき同時に、語りにおいてしばしば「非人称的」と規定されてきた発話行為がどのようなものかについても言及するつもりである。そして、そこでの発話主体をどう捉えるのか、さらには、そのモードが人間の生にとってどのような意味をもつのかを、ハイデガーらの哲学的考察に依拠しながら考えてみたい。

2017年7月8日(土) 14:00～17:00

文学研究科棟〔F棟〕3階中会議室

どなたでも興味のある方の来聴を歓迎します (事前申し込み不要)

ナラティブ・メディア研究会

照会先：文学研究科・森本浩一 情報科学研究科・森田直子

xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp (森本)